

平成25年行政事業レビューシート (外務省)									
事業名	国際連合開発計画(UNDP) 拠出金 (グローバルヘルス技術振興基金(GHIT))			担当部局庁	国際協力局			作成責任者	
事業開始・終了(予定) 年度	平成24年度			担当課室	国際保健政策室			室長 小沼 士郎	
会計区分	一般会計			政策・施策名	基本目標Ⅶ 分担金・拠出金 具体的施策Ⅶ-3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項			関係する計画、通知等	第20回国際連合総会決議2029(XX)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	開発途上国にまん延する顧みられない熱帯病(NTD。シャーガス病、リーシュマニア症、マラリア)に対する新薬開発及び供給支援を行い、日本の製薬産業の優れた研究開発力を活かして国際保健分野での貢献を行うとともに、日本の製薬産業の海外進出を下支えし、その成長・発展を図ることを目的として、官民協働で開発途上国向けの医薬品の研究開発支援及び供給準備・供給支援を行うための拠出金。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国際機関である国際連合開発計画(UNDP)が一般社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT)と連携し、開発途上国向けの医薬品の研究開発支援及び供給準備・供給支援を行う事業。UNDPに対する拠出金を外務省(供給準備・供給支援)と厚生労働省(医薬品の研究開発支援)で分担し、GHITに対してはゲイツ財団と日本の製薬企業が分担して資金拠出を行う。								
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☒ その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	700		
		繰越し等	-	-	700	-			
		計	-	-	700	-	700		
	執行額		-	-	700				
	執行率 (%)		-	-	100%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標				単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (29年度)
	供給準備及び供給支援にかかるプロジェクトを実施することにより3疾病(シャーガス病、リーシュマニア症、マラリア)に対応した3新薬の開発・供給促進			成果実績	新薬の開発・供給数	-	-	-	3疾病に対応した3新薬の開発・供給促進
				達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	新薬の供給準備・供給支援にかかるプロジェクト数			活動実績 (当初見込み)	プロジェクト数	-	-	-	-
-						()	()	(6)	
単位当たりコスト	(約117百万円/新薬の供給にかかる1プロジェクト)			算出根拠	700百万円(平成26年度要求額)/6プロジェクト=117百万円				
平成25・26年度予算内訳	費 目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由					
	国際連合開発計画(UNDP)拠出金(グローバルヘルス技術振興基金)	-	700						
	計	-	700						

事業所管部局による点検						
	項 目		評 価	評価に関する説明		
国費 必要投入 の	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	内閣府が平成22年に実施した世論調査においては、7割以上が保健・医療分野の国際協力を、今後重点を置くべき分野として回答し、過半数が資金援助を増額すべきと回答するなど、国民から幅広い支持が得られている。 特にNTDは、世界で10億人以上に影響を与えているが、途上国中心に蔓延している疾病であるために、商業ベースの医薬品開発は十分になされておらず、政府の支援が必要不可欠である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的（成果目標）の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		-			
事業の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-	プロジェクトの選定及び費目・使途に関しては、厳密な審査を行う予定である。医薬品の供給準備・供給支援は、開発された医薬品を効果的に使用し、途上国の保健状況改善を実現するために必要である。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		-			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		-			
事業の 有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-			
重複 排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 （役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）		○	医薬品の研究開発部分は、専門的な知見を有し、製薬企業を所管する厚生労働省が分担し、医薬品の供給準備・供給支援部分は、途上国の事情に通じ、供給に知見を有する外務省が分担する。		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
	843	開発途上国向け医薬品研究開発支援事業	厚生労働省			
点検 結果	世界中で人々に深刻な影響を与えている顧みられない熱帯病(NTD)等の制圧・根絶のためには、新たな医薬品の開発及びそれら医薬品の供給が必要不可欠であり、ミレニアム開発目標（MDGs）でも、国際社会は製薬企業と協力して、この問題に取り組むことが掲げられている。 医薬品の供給支援・供給準備は途上国の人々の医薬品へのアクセスに直接貢献する、重要な部分である。UNDP等の国際機関とも連携して、効率的な実施に努める。					
外部有識者の所見						
-						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状 通り	引き続き、予算の効率化や経費の節減の余地が無いか確認していく。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状 通り	-					
備考						
-						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	-	平成23年	-	平成24年	-